

第5章 非述語文

第5章では、第3章で提示した談話データを用いて、第4章で設定した項目の分析を行う。日本語と韓国語の文の文末の構造体を、〈述語の有無〉という観点から見る。

5.1. 日本語と韓国語の〈述語文〉と〈非述語文〉の分布

〈文の総数〉及び、〈述語文〉と〈非述語文〉の総数を、日本語と韓国語の談話データ全体についてそれぞれの談話がいったいいくつの文から成っているのかを調べ、さらにそれらの文1つ1つに述語があるのかないのか、つまり〈述語文〉か〈非述語文〉かを、残らず調査する。そのうち、〈初対面同士の会話〉と〈友人同士の会話〉という場面別にさらに詳細な検討を行う。

5.1.1. 談話データ全体における〈述語文〉と〈非述語文〉

この項では日本語と韓国語の談話データ全体について〈文の総数〉および〈述語文〉と〈非述語文〉という観点からの総括的な分布を考察する。

5.1.1.1. 談話データ全体の〈文の総数〉

日本語と韓国語それぞれ、〈初対面同士の会話〉28組と〈友人同士の会話〉12組、計80組の談話と、日本語の異なり人数80名、韓国語の異なり人数80名、計160名の発話に、いったいいくつの文が出現したかを見た結果は、次のとおりである：

表 36 日本語の総文数

総文数	9072
-----	------

表 37 韓国語の総文数

総文数	7105
-----	------

両言語における〈文の総数〉の顕著な違いに注目しよう。

両言語における談話データは、同様の会話状況や条件の下で、15分間会話を録音し、そのうち5分間を文字化したものである。同様の状況や同じ時間内での会話であるにもかかわらず、その総文数は日本語が9,072文、韓国語が7,105文で、約2,000文の違いが現れている。各会話ごとに平均して約50文に近い数の差が生じているということであり、会話によっては総文数が100文を超える違いを示す会話もある。

こうした総文数の差は、日本語と韓国語の会話スタイルの決定的な違いの証明であると言わざるをえない。総文数のこうした差の原因を考えると、話のスピードなど、い

くつかの原因が考えられる。

最も大きな理由として、金珍娥(2003,2004a)で述べている、〈turn の存在様式〉の違いを挙げうる。会話にあっては、1人の話が止まらぬうちに、相手が話を始めてしまうと、発話が重なることになる。第1章でも見たように、この点は書かれたことばと話されたことばの決定的な違いの1つである。会話における発話のこうした重なり方を観察すると、2人の話者の発話が重なって共存しているのか、重ならず、独立しているのかといった〈turn の共存性〉と〈turn の独立性〉が、日本語と韓国語においては、大きな違いを示していることがわかる。金珍娥(2003)によると、相手の発話と重ならず、独立している発話文は、日本語においては、全体発話文の54%、重なって共存している発話は46%を占めており、会話の半分ほどが重なっていることが見て取れた。一方、韓国語は、相手と重ならず、独立して現れる発話が、全体の何と8割を占めており、残り2割が相手のturnと共存している。

つまり、日本語は相手と重なる発話が半分近くを占めるのに対し、韓国語は2割ほどしかないのである。日本語の会話のスタイルを〈共存型〉と呼ぶなら、韓国語のスタイルは〈独立型〉と呼ぶことができよう。

また、〈独立しているあいづち発話〉は日本語と韓国語が同程度の割合を示しているが、〈共存しているあいづち発話〉、日本語が韓国語より2倍以上の高い割合を示していることも金珍娥(2003)は報告している。こうした結果から、日本語と韓国語の談話構造を支えるturnの存在様式は互いに非常に異なっていることが分かるのである。

今回の日本語と韓国語の〈文の総数〉の顕著な違いも、こうした〈turn の存在様式〉から説明ができる。すなわち、制限された同様の時間内に、日本語の文の総数が韓国語より多いのは、独立した文が続いている韓国語に比べ、日本語は相手のturnに重ねている発話が多いゆえに、同じ時間でもより多くの文が出現するのである。談話を観察すると、この違いは一目瞭然である。

5.1.1.2. 〈述語文〉と〈非述語文〉の総数

日本語と韓国語それぞれ、〈初対面同士の会話〉28組と〈友人同士の会話〉12組、計80組の談話と、日本語の異なり人数80名、韓国語の異なり人数80名、計160名の発話に現れた〈述語文〉と〈非述語文〉の総数は次の通りである：

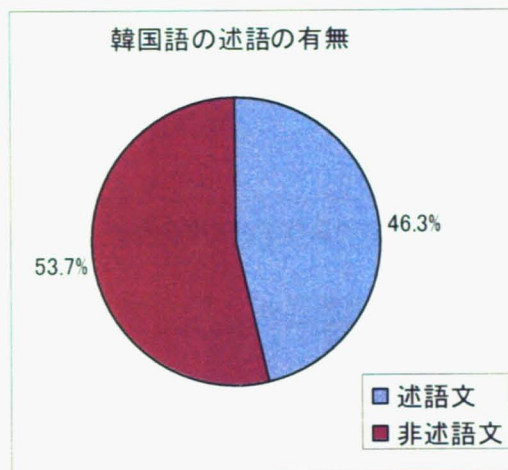
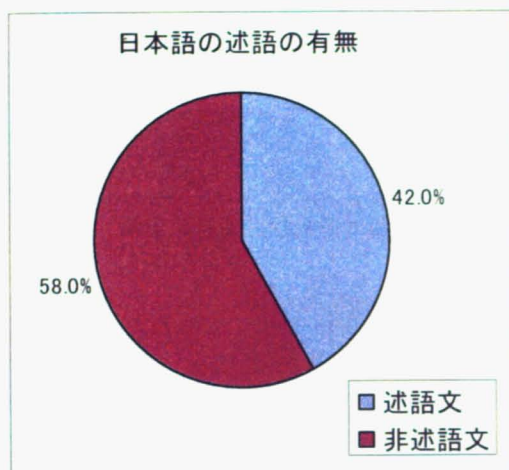
表 38 日本語の述語文と非述語文の総数

	文の数	比率
述語文	3814	42.0%
非述語文	5258	58.0%
総文数	9072	100.0%

表 39 韓国語の述語文と非述語文の総数

	文の数	比率
述語文	3292	46.3%
非述語文	3813	53.7%
総文数	7105	100.0%

〈%: 文の総数に対する述語文と非述語文の割合〉



談話データの全体に関して判明した最も重要な、いま 1 つの特徴は、両言語共に〈非述語文〉の使用率が〈述語文〉の使用率より高く、談話全体の半分以上を占めているということである。日本語が韓国語より、〈非述語文〉の使用の比率がやや高く、〈述語文〉の使用の比率がやや低い。

この事実は言語研究にとっては極めて重要である。既存の文法は概して文においては〈主語－述語〉という要素の組み合わせをいわば暗黙の前提としている感を呈していたということは疑いえないであろう。しかしながら、話されたことばにあっては、半分近くの文においては少なくとも〈述語〉、文の核たる〈述語〉が存在しないのである。単に半分の文では述語が「省略」されたのだというような通り一遍の説明で済ますには、半分以上を越える文に述語が現れないという事実は、あまりにも重い。〈非述語文〉の厳然たる存在というこうした事実は、文法研究の前提そのものをいま一度問い返してみることが、強く迫るのである。

5.1.1.3. 〈初対面同士の会話〉と〈友人同士の会話〉の場面別における傾向

次に、〈初対面同士の会話〉なのか、〈友人同士〉なのかという点について、〈初対面同士の会話〉から見てみよう。日本語と韓国語それぞれ 28 組、計 56 組の談話データ

で、日本語母語話者の異なり人数 56 名、韓国語母語話者の異なり人数 56 名、計 112 名の発話に現れた〈文の総数〉及び、〈述語文〉と〈非述語文〉の総数である：

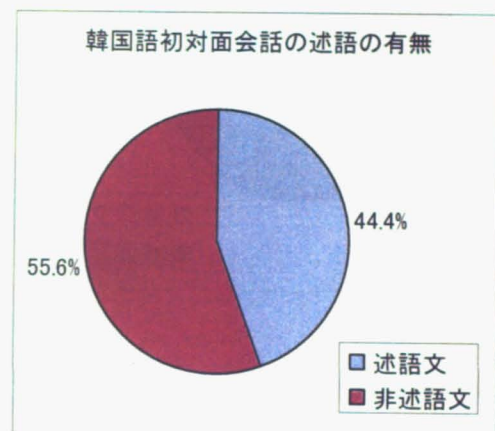
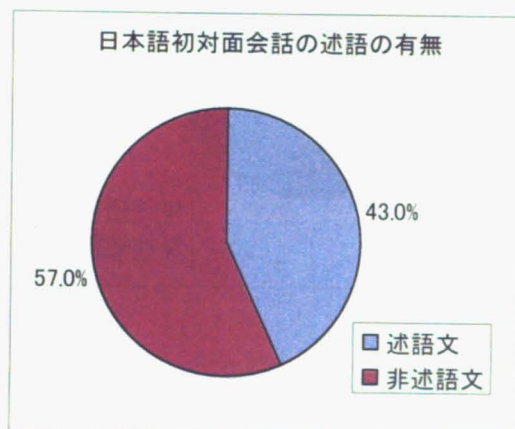
表 40 日本語の初対面同士の会話

	文の数	比率
述語文	2697	43.0%
非述語文	3582	57.0%
文数	6279	100.0%

表 41 韓国語の初対面同士の会話

	文の数	比率
述語文	2190	44.4%
非述語文	2746	55.6%
文数	4936	100.0%

〈%: 文の総数に対する述語文と非述語文の割合〉



〈初対面同士の会話〉においては、〈述語文〉の使用の比率は、日本語が韓国語より若干低く、〈非述語文〉の使用の比率は日本語が韓国語を若干上回る傾向を示している。

また、両言語同様に、述語が存在する〈述語文〉は 45%未満の使用率を示し、述語が無い〈非述語文〉は 55%以上の使用率を示している。両言語間の大きな差はなく、〈非述語文〉の使用が談話を成す総文数において、半分を上回る傾向を示している。

〈初対面同士の会話〉の〈文の総数〉を見ると、先に見たデータ全体についての傾向と同様、日本語が 6,279 文、韓国語が 4,936 文で、1,300 文以上日本語に多く、発話文が現れている。

次は、〈友人同士の会話〉である。日本語と韓国語それぞれ 12 組、計 24 組の談話データで、日本語母語話者の異なり人数 24 名、韓国語母語話者の異なり人数 24 名、計 48 名の発話に現れた〈文の総数〉及び、〈述語文〉と〈非述語文〉の総数である：

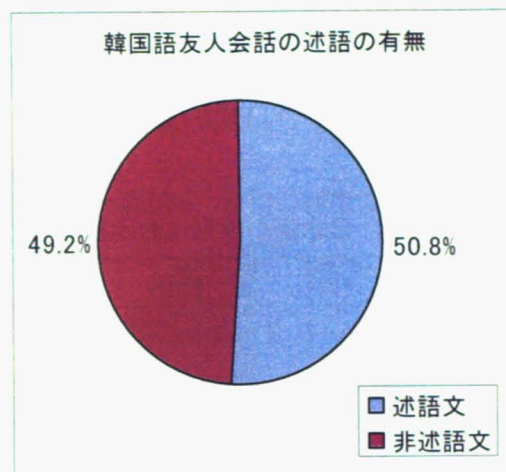
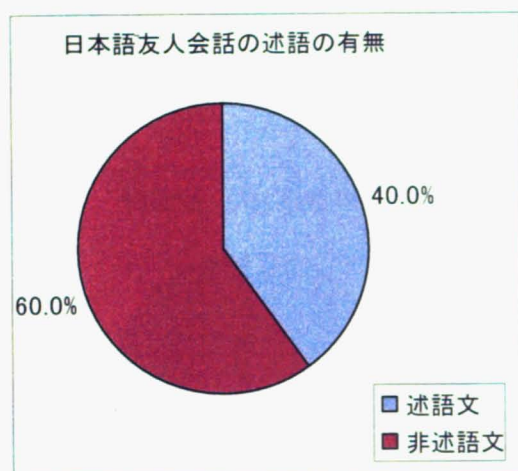
表 42 日本語の友人同士の会話

	文の数	比率
述語文	1117	40.0%
非述語文	1676	60.0%
文数	2793	100.0%

表 43 韓国語の友人同士の会話

	文の数	比率
述語文	1102	50.8%
非述語文	1067	49.2%
文数	2169	100.0%

〈%: 文の総数に対する述語文と非述語文の割合〉



〈友人同士の会話〉においては、〈初対面同士の会話〉に現れた傾向とは、異なる傾向が見られる。日本語においては、〈非述語文〉の使用率が 60%を示し、〈述語文〉の使用率 40%より、20%も高い。一方、韓国語においては大きい差はなく、〈述語文〉、〈非述語文〉はほぼ半々である。

こうした結果を〈初対面同士の会話〉と比較してみると、〈初対面同士の会話〉では両言語とも、〈述語文〉と〈非述語文〉の目立つ差は無く、〈非述語文〉の使用率が半分以上で、〈述語文〉の使用率よりやや高かったのに比べ、〈友人同士の会話〉では、日本語は〈非述語文〉の使用率がより高くなり、韓国語は反対に、〈非述語文〉の使用率がより減少するという、面白い傾向が窺える。

またこうした事実は、日本語では、親密さの度合いが高い相手に〈非述語文〉の使用が多くなることを示している。また、韓国語では、逆に親密さの度合いが低い相手に〈非述語文〉をわずかだがより多く使い、親密な相手であるほど〈述語文〉の使用が多くなることが予想できる。

5.1.2. 男女の性別による〈述語文〉と〈非述語文〉

次は、男性と女性という性別による〈述語文〉と〈非述語文〉の割合の特徴を考察

してみよう。

日本語と韓国語それぞれ〈初対面同士の会話〉での男性 28 名、女性 28 名と〈友人同士の会話〉での男性 12 名、女性 12 名、すなわち男性 40 名、女性 40 名の、異なり人数計 160 名について分析結果である。

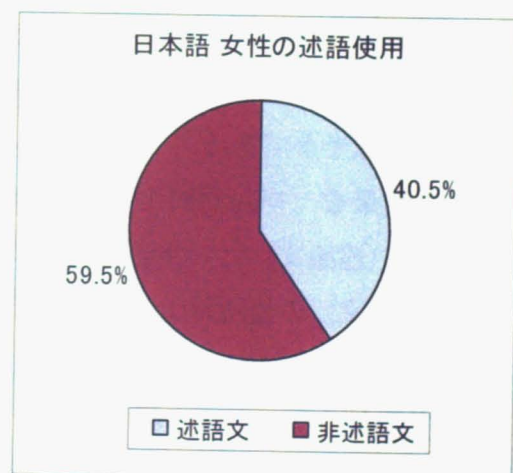
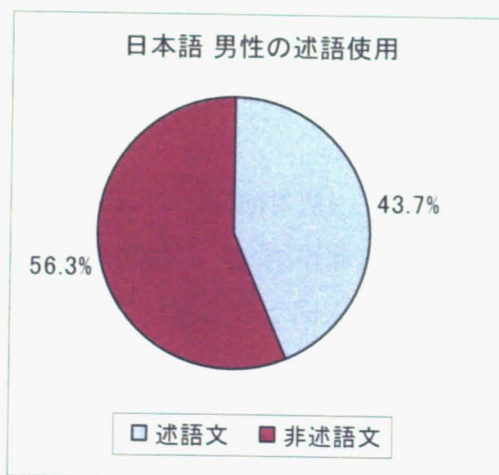
5.1.2.1. 性別から見た談話データ全体における述語の有無

今度は話者の性別による違いがあるかどうかを見てみよう。〈初対面同士の会話〉と〈友人同士の会話〉をあわせた全体の談話データにおける男性と女性の〈述語文〉と〈非述語文〉の割合は次の通りである。：

表 44 日本語の性別における〈述語文〉と〈非述語文〉の割合

	男性		女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	1926	43.7%	1888	40.5%
非述語文	2481	56.3%	2777	59.5%
文数	4407	100.0%	4665	100.0%

〈%: 文の総数に対する述語文と非述語文の割合〉



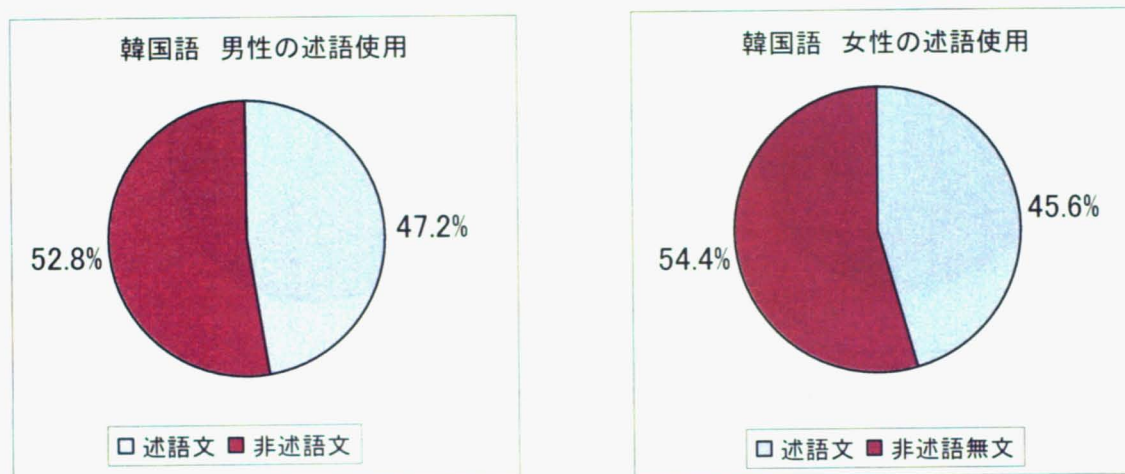
日本語においては、〈非述語文〉の割合が〈述語文〉の割合より高い。また、男性より女性において、〈非述語文〉が〈述語文〉より 3.5%ほど、わずかに多用されているものの、全体的には、男女共に〈非述語文〉の使用が談話全体の 50%を上回る傾向を示しており、〈述語文〉と〈非述語文〉の使用に、男女の性別の差は、それほど大きな影響を与えていないものと考えられる。

次は韓国語の性別による〈述語文〉と〈非述語文〉の割合を見てみよう：

表 45 韓国語の性別における〈述語文〉と〈非述語文〉の割合

	男性		女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	1476	47.2%	1816	45.6%
非述語文	1649	52.8%	2164	54.4%
文数	3125	100.0%	3980	100.0%

〈%: 文の総数に対する述語文と非述語文の割合〉



韓国語でも、男女の性別の差による〈述語文〉と〈非述語文〉の割合の違いはそう見られない。男女共に、ほぼ同率の〈述語文〉と〈非述語文〉を用いており、〈非述語文〉の使用率が半分以上を占めていることがわかる。

こうした結果から日本語、韓国語ともに〈述語文〉と〈非述語文〉の使用に、男女の性別の差は、大きい影響は与えていないことがわかる。

5.1.2.2. 〈初対面同士の会話〉と〈友人同士の会話〉の場面別に現れる性別による述語の有無

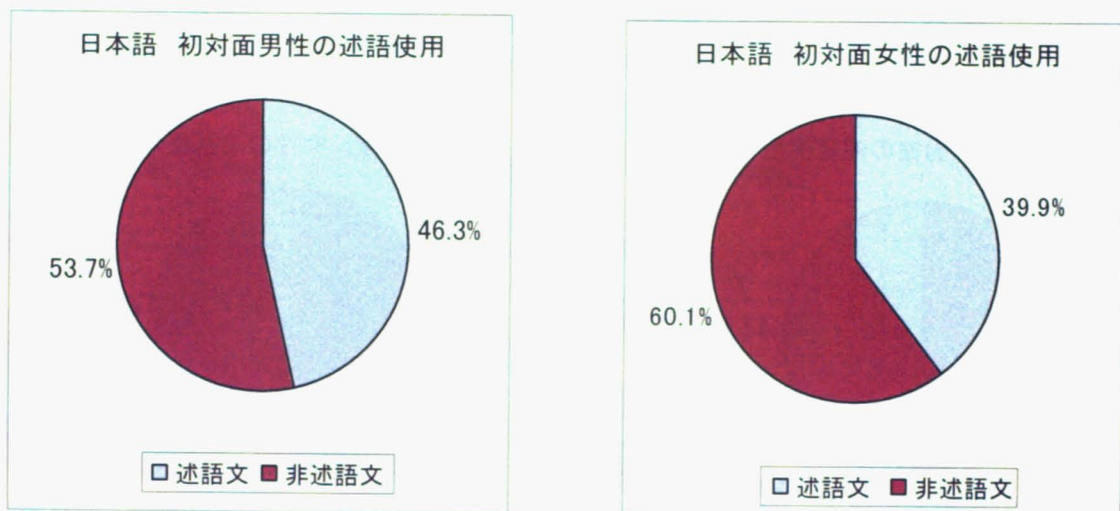
談話全体における傾向としては、男女の性別の違いによる〈述語文〉と〈非述語文〉の差は現れなかった。それでは親密さの度合いによってはどうであろうか。〈初対面同士の会話〉と〈友人同士の会話〉という親密さが異なる談話を比べることで、〈述語文〉と〈非述語文〉は男女の性別の差がどのように反映され現れるのか検討してみよう。

まず、日本語の〈初対面同士の会話〉から見てみよう：

表 46 日本語の〈初対面同士の会話〉に表れる男女の性別による述語の有無

	男性		女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	1389	46.3%	1308	39.9%
非述語文	1608	53.7%	1974	60.1%
文数	2997	100.0%	3282	100.0%

〈%: 文の総数に対する述語文と非述語文の割合〉



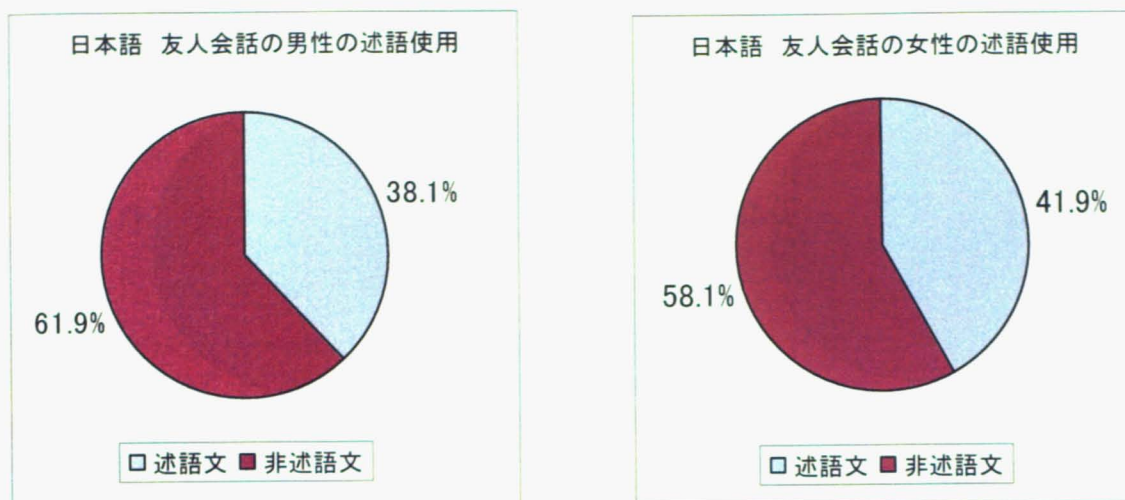
初対面の相手に対して男性は、〈述語文〉と〈非述語文〉の使用のそれほど大きい差は無いものの、〈述語文〉より〈非述語文〉を若干多く用いていることがわかる。

一方、初対面の相手に対して女性は、〈述語文〉が40%未満、〈非述語文〉が60%以上を示している。〈述語文〉、〈非述語文〉に20%の差が現れているのである。このことから男性より女性が、初対面の相手に〈非述語文〉を多く用いていることが明らかになる。

表 47 日本語の〈友人同士の会話〉に表れる男女の性別による述語の有無

	男性		女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	537	38.1%	580	41.9%
非述語文	873	61.9%	803	58.1%
文数	1410	100.0%	1383	100.0%

〈%: 文の総数に対する述語文と非述語文の割合〉



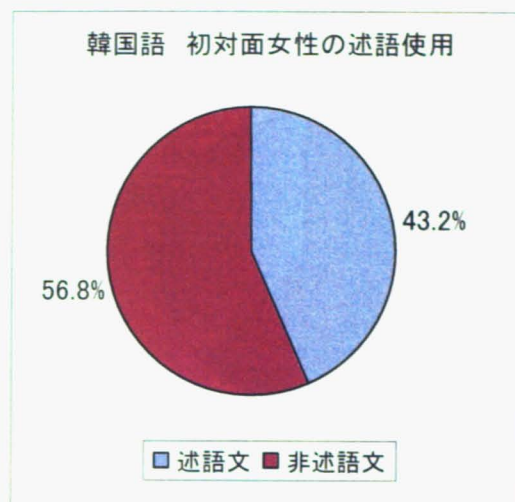
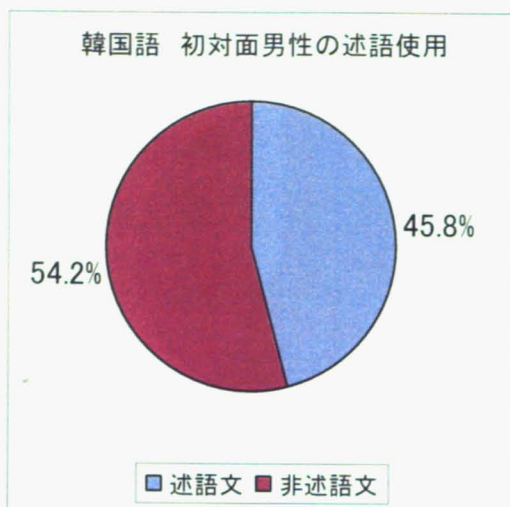
友人の相手に対して男性は、〈述語文〉が40%未満、〈非述語文〉が60%以上という、相対的に20%の差が開くほどの〈非述語文〉の高い使用率を示している。また、友人に対して女性は、初対面の相手に対する場合と同様に、〈非述語文〉の使用率が高い傾向を示している。

韓国語の場合をみてみよう：

表 48 韓国語の〈初対面同士の会話〉に表れる男女の性別による述語の有無

	男性		女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	1017	45.8%	1173	43.2%
非述語文	1204	54.2%	1542	56.8%
文数	2221	100.0%	2715	100.0%

〈%: 文の総数に対する述語文と非述語文の割合〉

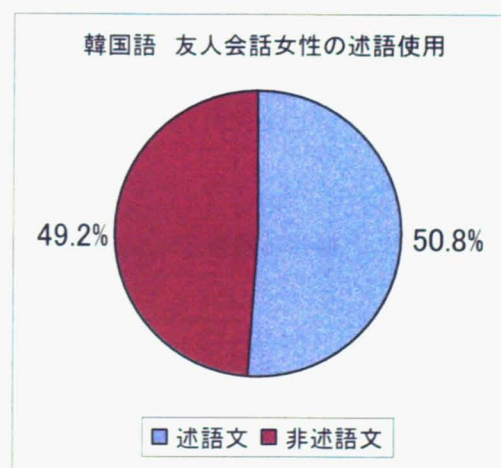
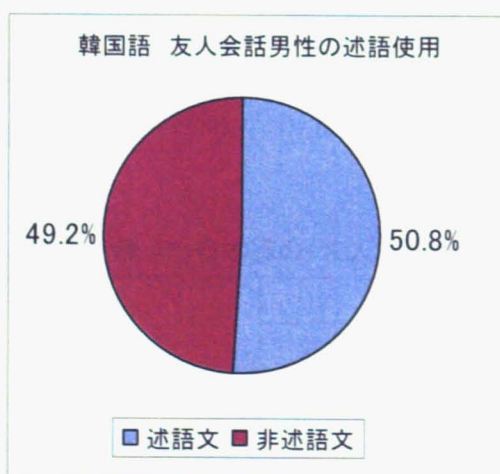


初対面の相手に対して，男性も女性も同様の傾向を示している．〈述語文〉の使用率が相対的にやや低く，〈非述語文〉の使用率が談話全体の 50% を上回っている．

表 49 韓国語の〈友人同士の会話〉に表れる男女の性別による述語の有無

	男性		女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	459	50.8%	643	50.8%
非述語文	445	49.2%	622	49.2%
文数	904	100.0%	1265	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉



しかし，友人の相手に対して男性と女性は同様に，〈述語文〉の使用率が 50% を上回

り、〈非述語文〉の使用率より、やや高い割合を示している。

上記の結果から、日本語では男性は、初対面の相手より、友人の相手に対して〈非述語文〉をより多く使用しており、女性は初対面の相手にも友人の相手にも同様に〈非述語文〉の使用が多いことがわかる。

一方、韓国語では、初対面の相手より、友人の相手に対して〈述語文〉をわずかながら多く用いるという大変興味深い事実が示された。この点では日本語とは異なっている。その現象に男女の差は無く、男女共に同等の割合で現れている点が、また注目したいところである。

要するに〈述語文〉と〈非述語文〉の使用の差は、男女という性別によるものではなく、〈初対面同士〉であるのか、〈友人同士〉であるのかといった、親密の度合いにより、より強く条件づけられるものと解釈できる。また、親密度の高い〈友人〉に対して、日本語では〈非述語文〉の使用が多く、韓国語では〈述語文〉の使用が多いことから、日本語と韓国語の会話表現のスタイルの違いが見出されるのである。

5.1.3. 世代別による〈述語文〉と〈非述語文〉

〈述語文〉と〈非述語文〉の割合は、40代、30代、20代という話者の年齢別に見ると、どのようになっているであろうか。日本語と韓国語それぞれ、40代は男性4名、女性4名の計8名、30代は男性20名、女性20名の計40名、20代は男性16名、女性16名の計32名についての分析結果を見よう。⁵²

5.1.3.1. 世代から見た述語の有無

談話データ全体について、日本語と韓国語それぞれ男女を合わせた40代、30代、20代の〈述語文〉と〈非述語文〉の割合を検討してみよう。これらはすべての談話において40代、30代、20代それぞれの話者による文の総数を見たものである。

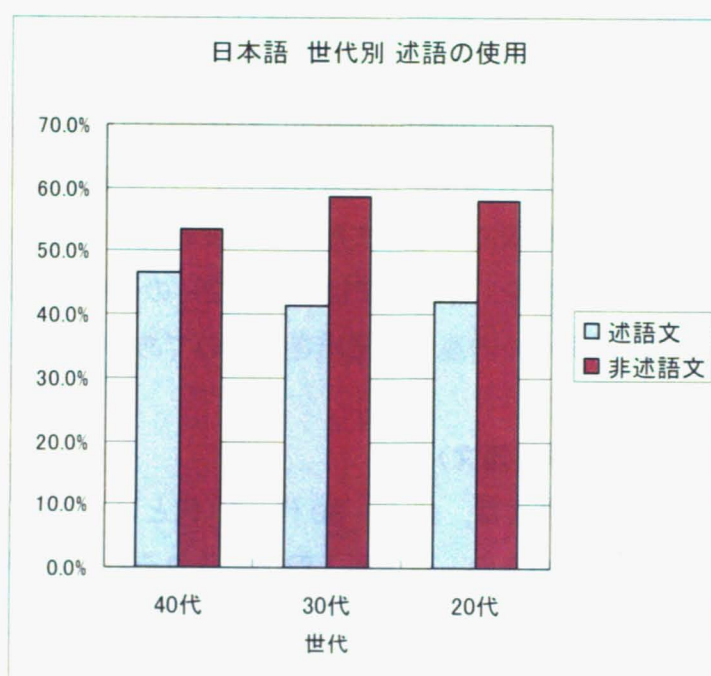
まず、日本語からみてみよう：

⁵² 談話データの被験者の性別、年齢、異なり人数についての詳細は第2章参照。

表 50 日本語の世代別による述語の有無

	40代		30代		20代	
	文の数	割合	文の数	割合	文の数	割合
述語文	368	46.7%	1815	41.3%	1631	41.9%
非述語文	420	53.3%	2575	58.7%	2263	58.1%
文数	788	100.0%	4390	100.0%	3894	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉



上記の結果からは、世代別における〈述語文〉と〈非述語文〉の差はそれほど大きくないといえる。40代の〈述語文〉の使用率が、30代、20代の使用率より若干高く現れ、30代、20代の〈非述語文〉の使用率が40代の使用率よりやや高く現われている。

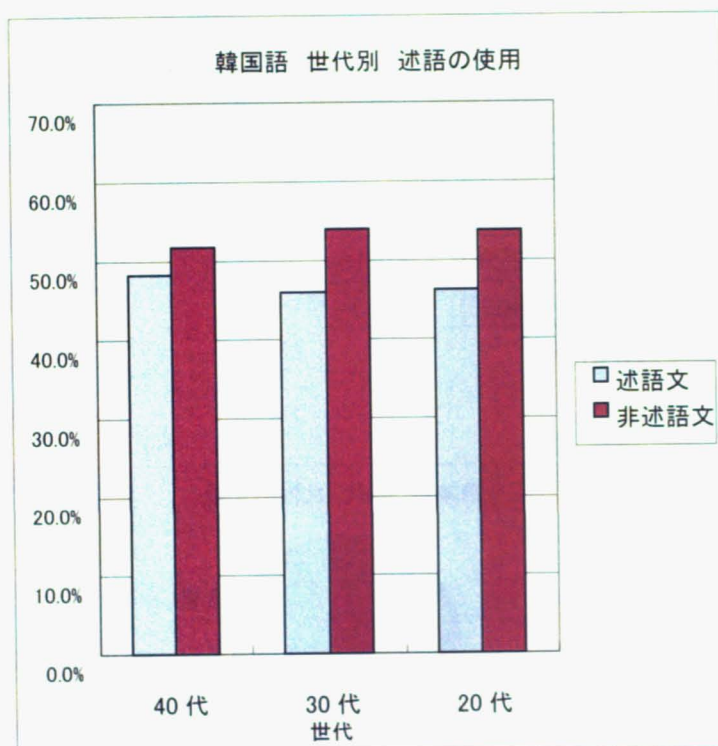
佐竹秀雄(1995,1997) 尾崎喜光(2001)などの研究で「若者ことば」の違いや世代別の言語使用の違いが述べられている中、本研究の談話データにおける世代別の〈述語文〉と〈非述語文〉使用についての違いがそれほど大きくない点は、注目すべきところでもある。

どの世代においても〈非述語文〉が〈述語文〉の使用より上回り、談話全体の半分以上を占めている。この点、韓国語も日本語と同様の結果を示している：

表 51 韓国語の世代別による述語の有無

	40代		30代		20代	
	文の数	割合	文の数	割合	文の数	割合
述語文	306	48.2%	1633	46.0%	1353	46.3%
非述語文	329	51.8%	1915	54.0%	1569	53.7%
文数	635	100.0%	3548	100.0%	2922	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉



韓国語においては、40代の〈述語文〉の使用率が、30代、20代の使用率よりやや高く現れ、30代、20代の〈非述語文〉の使用率が40代の使用率よりやや高く現れているものの、その差はわずかである。

こうした結果から、日本語と韓国語はいずれも、40代、30代、20代といった世代の違いが〈述語文〉と〈非述語文〉の使用の違いに与える影響は、あまり大きくないものと認められる。それでは以下に、世代別と共に男女別にも注目し、さらに考察を深めてゆこう。

5.1.4. 世代別と性別から見た〈述語文〉と〈非述語文〉

〈初対面同士の会話〉と〈友人同士の会話〉に分け、各世代の男女別の〈述語文〉と〈非述語文〉の使用の違いを考察してみる。

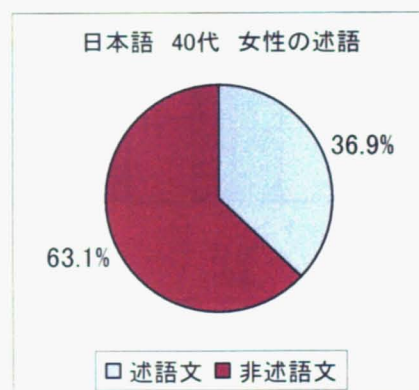
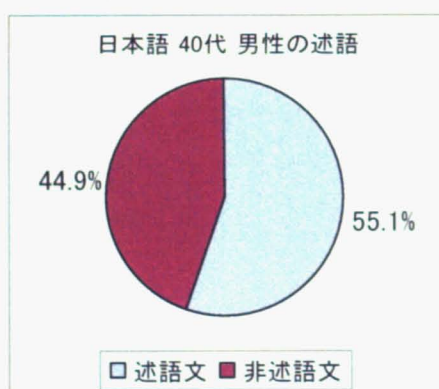
5.1.4.1. 日本語における世代別と性別から見た述語の有無

まず、日本語の〈初対面同士の会話〉に現れた各世代の男女における違いに注目してみよう：

表 52 日本語の〈初対面同士の会話〉における 40 代の男女別の述語の有無

	40 代男性		40 代女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	234	55.1%	134	36.9%
非述語文	191	44.9%	229	63.1%
文数	425	100.0%	363	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉



上の表のごとく、日本語の 40 代の〈述語文〉と〈非述語文〉の使用の違いを、男女別に分けてみると、男性は〈述語文〉の使用がより多く、55%に上っている反面、女性は逆に〈非述語文〉を〈述語文〉の 2 倍近く用いているという面白い結果が見出された：

表 53 日本語の〈初対面同士の会話〉における 30 代の男女別の述語の有無

	30 代男性		30 代女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	667	45.3%	655	40.0%
非述語文	805	54.7%	983	60.0%
文数	1472	100.0%	1638	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉

表 54 日本語の〈初対面同士の会話〉における 20 代の男女別の述語の有無

	20 代男性		20 代女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	488	44.4%	519	40.5%
非述語文	612	55.6%	762	59.5%
文数	1100	100.0%	1281	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉

一方、30 代と 20 代の男性は同様に 55%前後で〈非述語文〉を〈述語文〉より多く用いている。女性は男性よりも〈非述語文〉を多く用いており、60%に達する。

では日本語の〈友人同士の会話〉において、30 代と 20 代の男女の違いはどう現れるのだろうか：

表 55 日本語の〈友人同士の会話〉における 30 代の男女別の述語の有無

	30 代男性		30 代女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	263	37.8%	230	39.3%
非述語文	432	62.2%	355	60.7%
文数	695	100.0%	585	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉

表 56 日本語の〈友人同士の会話〉における 20 代の男女別の述語の有無

	20 代男性		20 代女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	274	38.3%	350	43.9%
非述語文	441	61.7%	448	56.1%
文数	715	100.0%	798	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉

〈友人同士の会話〉において、30代と20代の男女共に、〈非述語文〉の使用が〈初対面同士の会話〉会話より多く現われていることがわかる。

また、〈初対面同士の会話〉では、30代の女性の〈非述語文〉の使用率が男性より高く現れていたが、〈友人同士の会話〉においては男女共に、〈述語文〉より高い、同量の〈非述語文〉の使用率が示されている。

40代の男性より女性の高い〈非述語文〉の使用率と、30代と20代の男性の、〈初対面同士の会話〉より、〈友人同士の会話〉でより高い〈非述語文〉の使用率を示している点は注目すべきであろう。

5.1.4.2. 韓国語における世代別と性別から見た述語の有無

今度は韓国語の〈初対面同士の会話〉に表れた各世代の男女における違いをみてみよう：

表 57 韓国語の〈初対面同士の会話〉における40代の男女別の述語の有無

	40代男性		40代女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	140	54.3%	166	44.0%
非述語文	118	45.7%	211	56.0%
文数	258	100.0%	377	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉

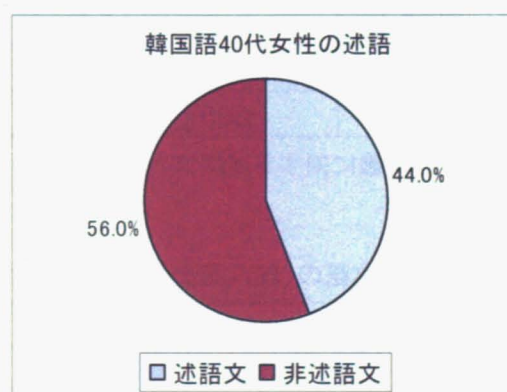
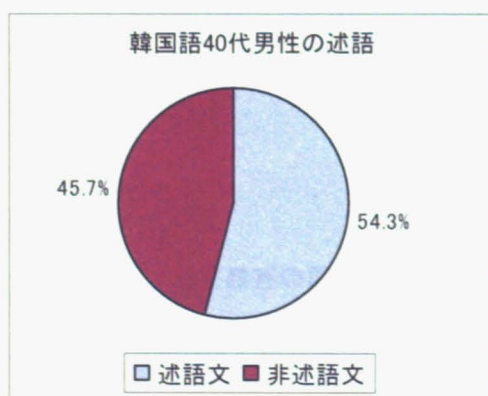


表 58 韓国語の〈初対面同士の会話〉における 30 代の男女別の述語の有無

	30 代男性		30 代女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	537	47.0%	575	42.6%
非述語文	606	53.0%	774	57.4%
文数	1143	100.0%	1349	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉

表 59 韓国語の〈初対面同士の会話〉における 20 代の男女別の述語の有無

	20 代男性		20 代女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	340	41.5%	432	43.7%
非述語文	480	58.5%	557	56.3%
文数	820	100.0%	989	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉

韓国語の〈初対面同士の会話〉においては、40 代の男性のみ、〈述語文〉の使用が 50%を上回っており、40 代の女性と 30 代の男女、20 代の男女においては上記の 5.3.1. の〈談話全体における傾向〉と同様に〈非述語文〉が 50%を上回る結果を見せている。韓国語の初対面では年齢が上であるほど、〈述語文〉を多用するわけである。

次に、〈友人同士の会話〉においてはどうか現れるのだろうか：

表 60 韓国語の〈友人同士の会話〉における 30 代の男女別の述語の有無

	30 代男性		30 代女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	208	48.3%	313	50.1%
非述語文	223	51.7%	312	49.9%
文数	431	100.0%	625	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉

表 61 韓国語の〈友人同士の会話〉における 20 代の男女別の述語の有無

	20 代男性		20 代女性	
	文の数	割合	文の数	割合
述語文	251	53.1%	330	51.6%
非述語文	222	46.9%	310	48.4%
文数	473	100.0%	640	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉

〈友人同士の会話〉においては、30代の男性のみが、〈初対面同士の会話〉と同様の結果を示しており、〈非述語文〉の使用は50%を超えている。しかし、30代の女性と20代の男女は、〈友人同士の会話〉で〈述語文〉の使用が高くなるという、面白い結果を示している。

以上、性別による述語使用の有無、世代別による述語使用の有無、そして世代別をさらに性別に分けた述語使用の有無を検討してきた。日本語も韓国語も40代男性においてのみ〈述語文〉が50%を超える割合を見せており、40代女性、30代の男女、20代の男女においては〈非述語文〉の使用が談話全体の半分以上を占めている。

また、日本語においては〈初対面同士の会話〉より〈友人同士の会話〉に、〈非述語文〉の使用が多い反面、韓国語においては〈初対面同士の会話〉より〈友人同士の会話〉に、〈述語文〉の使用が多く現れていることは、大変興味深い結果であった。

こうした結果は、金珍娥(2004a:17)での次のような記述と相通じるものがある：

日本語におけるこうしたあいづち発話は、会話が盛り上がり、会話の参加者が親密になるにつれ、その使用率が高くなるもので、「会話進行親和のストラテジー」を担うものではないかと思われる。韓国語におけるあいづち発話は、談話の最初の使用率が高く、その後低下することから、会話の初めのぎこちない雰囲気や和らげるための「会話導入融和のストラテジー」であると言えよう

こうした点に鑑みるならば、すなわち、〈非述語文〉に属するあいづち発話は、日本語においては会話が盛り上がる、すなわち〈友人同士の会話〉においてこそ、より活発に働き、韓国語においては初対面の相手との会話を始める部分、すなわち〈初対面同士の会話〉により、多く用いられるということになる。あいづちなどといったいかなる〈非述語文〉がこうした結果をもたらすのかを見るためにも、あいづちを含む〈非述語文〉の内実について、5.2.1で詳細に扱うことにする。

なお、〈述語文〉と〈非述語文〉の使用は話者の世代や性別よりも、相手との親密度による影響がもっと大きく働くものと考えられる。

5.1.5. 年齢の差による〈述語文〉と〈非述語文〉

前項では、40代、30代、20代それぞれの年代の話者のすべての発話について見た。この項では、それら話者が、相手の年齢によって〈述語文〉と〈非述語文〉を使う傾向が異なってくるのかどうかを、つまり、目上、目下、同年齢という、年齢の差による〈述

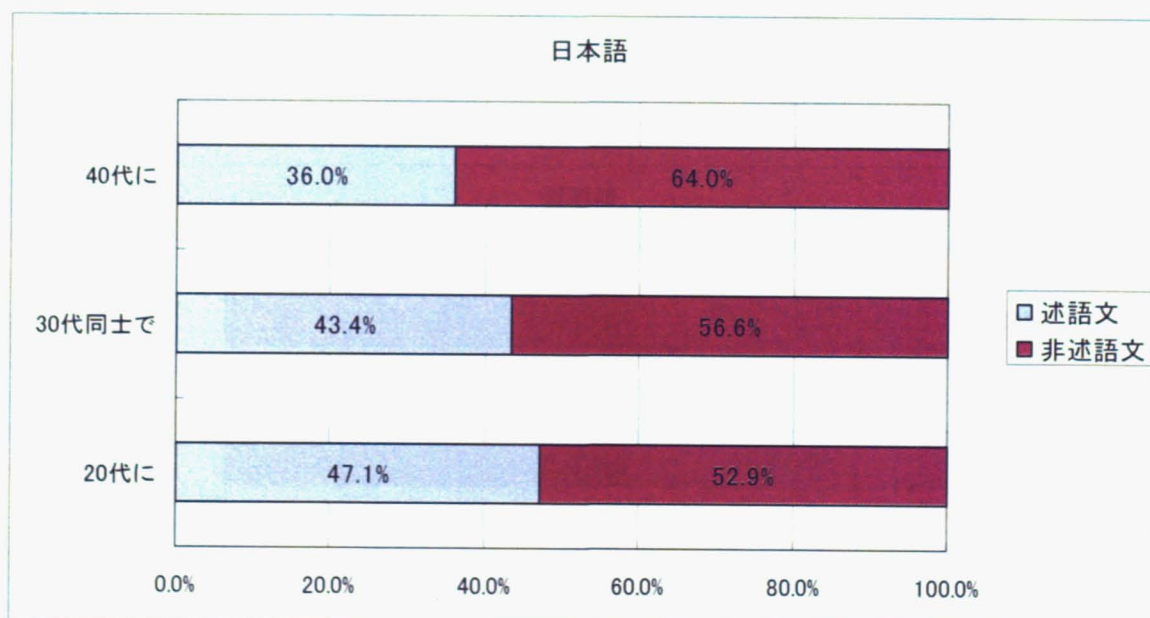
語文)と〈非述語文〉の使用率を考察する。〈初対面同士の会話〉の日本語と韓国語それぞれの30代の話者が、目上の40代の話者、同年齢の30代の話者、目下の20代の話者に対して、〈述語文〉と〈非述語文〉のいずれを用いているのかをみる。目上に対する割合は、30代の男女が40代の男女に対する値を合わせたものであり、目下に対する割合は、30代の男女が20代の男女に対する値を合わせたものである。同年齢に対する割合は30代同士の会話の両話者の値を合わせたものである。本稿が30代を中心層に据え、40代、20代の会話を収集したのは、こうした年齢の差による条件を見るためのものである。

まず、日本語における年齢の差による〈述語文〉と〈非述語文〉の使用率を見てみよう。

表 62 日本語の年齢の差による〈述語文〉と〈非述語文〉の使用

	30代が40代に対して		30代と30代同士で		30代が20代に対して	
	文の数	割合	文の数	割合	文の数	割合
述語文	304	36.0%	583	43.4%	435	47.1%
非述語文	541	64.0%	759	56.6%	488	52.9%
文数	845	100.0%	1342	100.0%	923	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉



違いの幅は少ないが、注目すべきことに、目上の40代に対しての〈非述語文〉の使

用が最も高く、その次は同年齢の 30 代、目下の 20 代へと〈非述語文〉の割合は低くなっている。

その反対に、目下の 20 代に対しては〈述語文〉の使用が最も高く、30 代、40 代に対する順にその使用率は低くなっていく。〈非述語文〉より〈述語文〉のほうが相対的には「丁寧」であろうと考えたくなるのであるが、この結果は発話の中身を観察することによって、その理由が見えてくる。

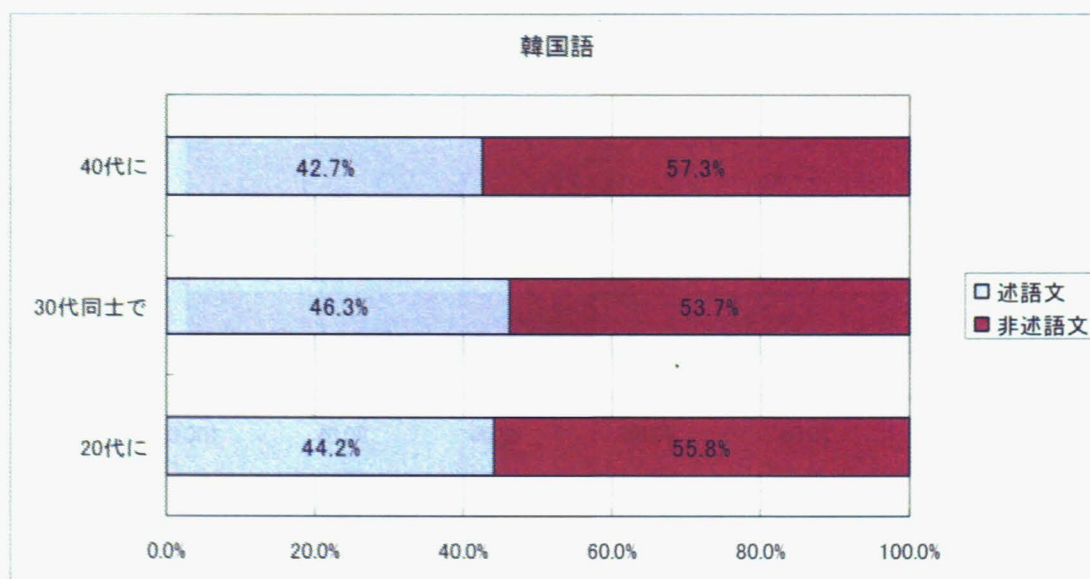
目上の 40 代に対して〈非述語文〉の使用が最も高い理由は、30 代の話者が目上の相手である 40 代の話者の話に〈傾聴する〉ための、あいづち発話の多用によるものと推測されるのである。また、20 代話者に対しての〈述語文〉の使用が最も高く現れているのは、目下の 20 代に話者にはあいづちを打ちながら相手の話に〈傾聴する〉より、30 代話者があいづちよりも〈内容志向発話〉をもって、話を進めているからではないかと推測できる。詳細は 5.2.1 で〈非述語文〉の種類と共に述べることにする。

韓国語においてはどうか：

表 63 韓国語の年齢の差による〈述語文〉と〈非述語文〉の使用

	30代が40代に対して		30代と30代同士で		30代が20代に対して	
	文の数	割合	文の数	割合	文の数	割合
述語文	295	42.7%	461	46.3%	356	44.2%
非述語文	396	57.3%	534	53.7%	450	55.8%
総数	691	100.0%	995	100.0%	806	100.0%

〈%: 文数に対する述語文と非述語文の割合〉



韓国語においては、年齢の差のある相手に対して、〈述語文〉と〈非述語文〉の違いはほとんど現れていない。しかし、わずかながら、同年齢である、30代同士の相手に対して〈述語文〉の割合が高く現れている。こうした傾向は、上記で既に考察した、韓国語では親密度の高い相手に〈述語文〉が多用されているという結果の延長線上にあるものと考えることができる。すなわち年齢の差のある、40代と20代の相手より、同年齢の相手に対して親密度が高く、それが〈述語文〉の割合に影響を及ぼしているものと考えられるのである。

5.2. 品詞論から見た〈非述語文〉のあり方

5.1.では、性別、世代別、年齢別、親疎関係別という言語外の条件による〈述語文〉と〈非述語文〉の現れ方の違いを検討してみた。ここでは、談話データ全体における〈述語文〉と〈非述語文〉の割合を、世代別、性別、親疎関係別の観点から考察を行ってきたわけである。日本語と韓国語における談話を〈述語文〉と〈非述語文〉が半々ずつ担当し、構成しているという新たな事実を得ることができた。

〈述語文〉と〈非述語文〉の全体的な分布様相につづき、次は〈述語文〉と〈非述語文〉の言語内の姿を検討してゆこう。用言を中心に構成される〈述語文〉、とりわけ談話の半分を占める〈非述語文〉はどのような姿で実現されているのか。

本研究では、既存の文法研究ではあまり触れることのなかった〈非述語文〉に重点をおき、1文1文の文末を分析することで、〈非述語文〉の実現様相、そのあり方に迫ることにしよう。

まず、〈非述語文〉の文末を形作る単語が、いったいどのような単語なのかを見てみよう。そのために文末の単語がいったいどのような品詞に属する単語から成っているかを調査した。この項では本研究が文末の解析に用いる品詞と、対象にする談話データを提示し、解析の結果を述べる。

5.2.1. 品詞論から見た〈非述語文〉の文末

文を統合する述語を持たずとも、立派な文として談話全体の半分を担当し、談話構成の役割を全うしている〈非述語文〉は、いったいどのような要素で成り立っているのだろうか。本研究では、〈非述語文〉の文末を品詞という観点から分析することで、〈非述語文〉の文末の構造体のあり方に接近する。

第4章で議論を重ねて定めた日本語と韓国語の品詞分類を、ここで確認しておこう：

表 64 本研究における日本語と韓国語の品詞分類⁵³

	日本語	韓国語
用言	動詞 Verb	動詞 Verb
	形容詞 Adjective	形容詞 Adjective
	指定詞 Copula	指定詞 Copula
	形容動詞 adjEctive verb	存在詞 exiStential
体言	名詞 Noun	名詞 Noun
その他	連体詞 adnoMinal	連体詞 adnoMinal
	副詞 aDverb	副詞 aDverb
	接続詞 conJunction	接続詞 conJunction
	間投詞 Interjection ・笑い Laugh	間投詞 Interjection ・笑い Laugh
	助詞 Particle ・終助詞 Final partical ・接続助詞 cOnjunction partical	助詞 Particle ・終助詞 Final partical
	助動詞 auXiliary verb	

5.2.2. 分析対象の談話データ

〈非述語文〉の姿は、〈初対面同士の会話〉のうち、12組の会話、日本語と韓国語、それぞれ40代男女、30代男女、20代男女の会話から見てみることにする。対象とする話者の会話の組み合わせは次のとおりである：

40代男性－30代男性 } 40代男性2名
 40代男性－30代男性 }
 40代女性－30代女性 } 40代女性2名
 40代女性－30代女性 }
 30代男性－30代男性：30代男性2名
 30代女性－30代女性：30代女性2名
 20代男性－20代男性：20代男性2名
 20代女性－20代女性：20代女性2名

こうした会話の組み合わせから、世代別、男女別の文の現れ方にも注目することができる。また、同性との会話を選ぶことで、異性の相手に対する言語使用という変数の影

⁵³ データの処理にあたっては、表に記されている各品詞の英語の大文字を用いて記号化を行う。

響を防ぎ、各世代の男性と女性の言語使用に重点を置いて観察する。

5.2.3. 〈非述語文〉の文末の品詞解析

文末の品詞については、文末最後の文節を中心に例えば次のように分析する：

30代男性：じゃあ、国語、

算数	とか。
名詞	助詞
N	P

：NP

例えば、〈非述語文〉「じゃあ、国語、算数とか。」の場合は、「算数とか」が文末の最後の文節であるので、これに注目し、品詞を解析する。「算数」が〈名詞〉(N)、学校文法や辞書では副助詞とされる「とか」は〈助詞〉(P)と認定する、こうして「じゃあ、国語、算数とか。」という〈非述語文〉の文末は〈名詞+助詞〉〈NP〉の構造を持つわけである。

このように文の最後の文節を品詞別に分析した結果、〈非述語文〉の文末から次のようないくつかのタイプを得ることができる。以下、日本語と韓国語で、現れるタイプと現れないタイプが異なる点に注目しつつ、見てみよう。

5.2.4. 〈非述語文〉の文末の構造体

上記の談話データ、日本語と韓国語それぞれ、8つの会話による12名、計24名の発話から得られた〈非述語文〉のあり方を類型化すると、以下の表のごとくである：

表 65 日本語と韓国語の〈非述語文〉の文末の構造体

日本語	文末の品詞の構造体	韓国語
1.1 間投詞系		
●	I 間投詞	●
●	IF 間投詞+終助詞	●
●	IL 笑い	●
●	IP 間投詞+助詞	×
1.2. 他の品詞の後につく間投詞		
●	VI 動詞+間投詞	●
●	DI 副詞+間投詞	●
●	NPI 名詞+助詞+間投詞	×
×	Jl 接続詞+間投詞	●
×	CI 指定詞+間投詞	●

×	NI 名詞+間投詞	●
2. N 名詞系		
●	N 名詞	●
●	NP 名詞+助詞	●
●	NF 名詞+終助詞	●
●	NPF 名詞+助詞+終助詞	●
●	NDF 名詞+副詞+終助詞	×
3. D 副詞系		
●	D 副詞	●
●	DP 副詞+助詞	●
●	DF 副詞+終助詞	●
4. J 接続詞系		
●	J 接続詞	●
●	JF 接続詞+終助詞	×
5. M 連体詞系		
●	M 連体詞	×
6. 用言系		
×	C 指定詞の連体形	●
●	E 形容動詞の連体形	×
●	VP 動詞+助詞	×
●	AP 形容詞+助詞	×
7. P 助詞系		
●	P 助詞	×
●	F 終助詞	×

日本語，韓国語とも，大きく〈間投詞系〉〈名詞系〉〈副詞系〉〈接続詞系〉〈用言系〉に分けうる。こうした5つの型は，6つの自立的な品詞，つまり間投詞，名詞，副詞，接続詞，用言類の独立した形と，それらに付属語である副助詞類を含む助詞や終助詞がついている形である。そして日本語に見られるような，助詞や終助詞が自立語なしに単独で，独立した要素として現れるものは〈助詞系〉とする。またここで〈用言系〉と呼ぶ型は上の5.2の項でも述べたように，用言の〈述語〉が現れてはいるが，最後に助詞や間投詞などがついて，述語としての統合性を失い，〈非述語文〉化していると判断される文の種類である。なお，用言が現れてかつ述語としての統合性を持つものは，〈述語文〉ということになるので，ここには含まれない。

両言語で最も異なる注目すべき特徴は，日本語には付属語である〈助詞〉と〈終助詞〉の独立した型である〈助詞系〉が存在しているという点，〈用言系〉では用言の後ろに助詞が結合した形が存在している点である。

これらは出現頻度を見ると、頻度が高い順に、概ね上のような順序で現れる。

5.3. 文末の構造体からみた〈非述語文〉

以下、日本語と韓国語における6つの型を実際の談話の例と共に詳細に見てゆこう。頻度については後に項を改め、詳しく述べる。

5.3.1. 〈間投詞系〉で終わる〈非述語文〉

品詞の観点から見た7つの型のうち、まず〈間投詞系〉が最もたくさん出現する型である。〈非述語文〉は日本語では67%、韓国語では75%を占めている。その現れ方を観察すると、間投詞が主たる単語かどうかという観点から、さらに次の2つに下位分類することができる：

- ① 間投詞単独、もしくは間投詞に付属語がついた形
「あ」、「はいはい」、「진짜요?」など
- ② 名詞、副詞、接続詞、用言類など、他の実詞の後に間投詞が現れる形
「結果出さないと、うーん」、「1학기, 에」、「고생하죠, 뭐」など

②の「他の実詞の後に間投詞が現れる形」の中でも、用言類の後につく間投詞は、間投詞をつけることで、当該の文の述語が統合力を失い、当該の文は〈間投詞〉でまとまってしまうため、本研究では〈非述語文〉として扱うのである。

また②のような、他の品詞につく間投詞を取り出して考察することで、自立語である間投詞が単独で現れる場合以外に、間投詞はどういった品詞に続いて現れるのかといった、より詳細な文のあり方に迫ることができる。

本研究ではさらに②の「他の実詞の後に間投詞が現れる形」の実現として次のような7つの類型を見出すことができた：

- a 動詞の後につく形
- b 名詞+助詞の後につく形
- c 副詞の後につく形
- d 接続詞の後につく形
- e 副詞の後につく形
- f 指定詞の後につく形
- g 名詞の後につく形

動詞と副詞につく間投詞は日本語と韓国語共に現れているが、「締め切り+とか+も、こう」のように、〈名詞+助詞〉の後につく間投詞は日本語にのみ現れており、接続詞、副詞、指定詞、名詞の後につく間投詞は韓国語にのみ現れているという面白い類型が見出された。

5.3.1.1. 間投詞の注目すべき機能

さらに②の〈他の実詞の後に間投詞が現れる形〉の間投詞の3つの機能も提起する：

- ア. 話者自身の発話に対するあいづちの機能…あいづちの再帰用法
- イ. スピーチレベルが常体で終わっている間投詞の前の部分に続けて、敬体の間投詞を用いることで、当該の文を敬体の文とする機能…間投詞の丁寧化用法
- ウ. 文の最後に間投詞を用いることで、当該の文をソフト化させる緩衝機能…間投詞の緩衝機能

間投詞のこうした機能は、文法論、談話研究を問わず、これまであまり議論されてこなかったのではないと思われる。

以下、例を見ながら、上記の類型と機能を詳細に見てみよう。日本語と韓国語の例文を共に提示する。

まず、①の〈間投詞単独〉もしくは〈間投詞に付属語がついた形〉の例から見てみよう：

【日本語】

[間投詞(I)]

30代男	私は最初墨田区, 江東区,	で, 今中野と.
40代男	え.	あ. はいはい. それは私が非常に知ってる地域ですね.
30代男	あ, そうですか. ははは(笑)	あ, そうですか.
40代男	えーえーえー.	生まれ育った地域ですね. え.

[間投詞(I), 笑い(IL), 間投詞+終助詞(IF)]

20代女	そう.	出る出る. てゆか, みんな出るよ, ほとんど.	ははは(笑).
20代女	そうなんだ.	で, 出る?	そっか(笑).

【韓国語】

[間投詞(I), 笑い(IL), 間投詞+終助詞(IF)]

20代女	(ああ, はい. 아, 예예.	ははは. 하하(웃).	あ, ほんとうですか? 아, 진짜요?.
20代女	막 난리를 쳐요, 애가. 미친듯이. 그래 가지구, 다시 다른 데 갖다 줘 버리구. 하하(웃). (さわぐんですよ, その子が, 狂ったように, それでもって, また他のところにもってっちゃって, ははは)		

これらの例は, 相手の発話に対し受け答えやあいづちの機能を果たし, 単独で, もしくは主となって現れる間投詞である.

次に②の〈他の実詞の後に間投詞が現れる形〉の例を提示する.

上記で述べた間投詞の注目すべき1つ目の機能として, 話者自身の発話に対しあいづちを打ち, 発話を終了させる機能を果たしているものである:

【日本語】

[動詞+間投詞(VI)]

30代男	でもけっこうプレッシャーでしたね.	えー.	えー.
30代男	結局だから あの結果出さないと, うーん.		

[副詞+間投詞(DI)]

20代女		うん.	ええ, そうです.)
		응.	어-, 맞어요.
20代女	근데 이태리로 갈지 아님 요즘 너무 영어 안 되면 안 되니까 영어쪽으로 갈지 잘, 응. (だけど イタリアに 行くか, でなきゃこのごろ英語がすごくだめだといけなから 英語の方こ 行くかは, うん.)		

[指定詞+間投詞(CI)]

20代女		(そうですか? 그래요?.	きれいはすごくきれいですよ.) 예쁘긴 되게 예쁘고
20代女	아, 스페인이 그 죽기 전에 꼭 가 봐야 할 그런, (あ, スペインがその死ぬ前に必ず行って見るべきそういう,	나라라고, 응.	国だと, うん.)

話者が自分自身で納得したり, 確認したりといった表現で, あいづちの〈話者自身の発話に対するあいづち〉, さらに言えば〈あいづちの再帰用法〉とでもいったものである. あいづちといえば, 一般には相手の発話に対するものであるという, いわば暗黙の前提があったわけであるが, こうした〈あいづちの再帰用法〉もまた, あいづちの拡大された用法として今後の研究では注目したいところである.

次は、②の他の実詞の後に間投詞が現れる形の例の中で、常体で終わっている間投詞の前の部分に続いて、敬体の間投詞を用いることで、当該の文を敬体の文とする機能を果たすものである：

【日本語】

[動詞+間投詞(VI)]

30代女	ただ、その千石、駅と、あの近くなんだというのがちょっといまいちイメージが湧かなくて、えー。
30代女	あ、知ってます? ううん。 そうですね。

「イメージが湧かなくて」までの常体の発話に、「えー」という敬体の間投詞を用いることで当該の文を〈敬体〉にすると同時に、「湧かない」という述語の統合力を弱化させ、〈非述語文〉化している。「えー」という間投詞が発話を丁寧化する働きを見せるのである。〈間投詞の丁寧化用法〉と呼んでおこう。

こうした〈間投詞の丁寧化用法〉は韓国語でも見出せる：

【韓国語】

[動詞+間投詞(VI)]

40代女	(どこか遠い所からいらっしゃったんですか?) 어디 먼 데서 오셨어요?	うん。 ふふふ。 음。 후후웃(웃).
30代女	저요?. 아이, 그렇게 멀지는 않구, 예. 하하하(웃). (私ですか?いや, そんなに遠くはなく, ええ. ははは.)	

[名詞+間投詞(VI)]

20代女	(1学期が終わって行かれる, 終わって?) 1 학기 때 끝나고 가실, 끝나구?	うーん. 半年ですか? 1年? 응-. 반년이요?. 일년?.
20代女	1 학기, 예. 마치고 갈 거예요. (1学期, ええ. 終えて行くつもりです.)	

韓国語の例においても「멀지는 않구(遠くはなくて)」という用言の常体の発話に「예(はい)」という敬体の間投詞を用い、当該の文を〈敬体〉として終止させると同時に、〈非述語文〉化している。

また、「1 학기(前期)」という名詞での常体の発話の後、「예(え)」という敬体の間投詞を用いることで、当該の文のスピーチレベルを敬体として保っているのである。

3つ目に、当該の文をソフト化させる緩衝機能を果たす間投詞の例である：

【日本語】

[名詞＋助詞＋間投詞(VI)]

30代女	うんうん. うーん. あ. ははははは(笑).
40代女	自分で自由にこう一締め切りとかも, こう. つまり, 強くなった, ずうずうしくなったってことなんですけど.

[副詞＋間投詞(DI)]

30代男	生徒と一距離を置いちゃあれかなと思いますけど, あんまりこう.
30代男	うん. そう, くつつきすぎてもよくないですよ.

話のつながりとして言う「こう」は辞書には「感動詞」とされている。本研究では副詞としての「こう」の意味を持たず、上記の例のように話のつながりの意味も含んで、文末に用いられている「こう」は間投詞として扱っている。こうした間投詞は話を明確な終止感を持った終わらせ方をしないために用いられているものとして緩衝機能を果たしているものと考えられる。なお、緩衝機能を持つこうした表現については第8章で詳しく扱う。

【韓国語】

[動詞＋間投詞(VI)]

20代男	(あー, そうですか?) 아-, 그래요?
20代男	군대 가는 애들이 있던데. 이래저래 고생하죠, 뭐. (軍隊に行くやつらがいたけど. あれこれ苦勞するんでしょう.)

[接続詞＋間投詞(JI)]

40代男	(今お住まいの所は家はそうすると何.) 지금 사시는 데는 집은 그러면 뭐.
30代男	그냥 일반 다, 다세대 주택 살고 있습니다. (ただの普通の多, 多世帯住宅に住んでいます.)

[副詞＋間投詞(DI)]

30代女	(30 であつしやるって? あ, やめてください.) 서른, 이시라구요?. 아, 하지 마세요.
30代女	예. 예. 아직 뭐. 하하(웃). 아직까진 별로. 오래됐나 봐요?. (はい, ええ. まだ... ははは. 今までは特に. 長いようですね?)

韓国語においては緩衝機能を果たす「뭐(何)」という間投詞は、用言のみならず、接続詞、副詞など多様な品詞について緩衝機能を果たしているのが特徴的である。

従来の間投詞についての議論は、主に①の「間投詞単独、もしくは間投詞に付属語がついた形」によるあいづち発話としての機能を述べる研究に集中していた。しかし、本研究が日本語と韓国語の文末のあり方に重点を置き、談話の中での〈間投詞〉の現れ方を、間投詞が主たる単語かどうかという観点から、①「間投詞単独、もしくは間投詞に付属語がついた形」のみならず、②「他の実詞の後に間投詞が現れる形」に注目することで、間投詞の新たな機能に迫ることができたといえよう。

既存の研究でも述べられていた、①相手の発話に対する受け答えやあいづちの機能のほかにも、②話者自分の発話に対するあいづちの機能、即ち〈あいづちの再帰用法〉、③スピーチレベルが常体で終わっている間投詞の前の部分に続けて、敬体の間投詞を用いることで、当該の文を敬体の文とする機能、即ち〈間投詞の丁寧化用法〉、④文の最後に間投詞を用いることで、当該の文をソフト化させる緩衝機能、即ち〈間投詞の緩衝機能〉を、間投詞の注目すべき機能として、本研究で新たに強調するものである。

5.3.2. 〈名詞系〉で終わる〈非述語文〉

〈非述語文〉がどのような品詞から構成される構造体で終わっているのかについて、次に〈名詞系〉で終わる〈非述語文〉について見てみると、概ね次のようなタイプで構成されていることがわかる：

- ① 名詞単独で現れる形
- ② 名詞に付属語である、格助詞や副助詞などの助詞がついている形
- ③ 名詞に付属語である終助詞がついている形
- ④ 名詞の後に付属語である助詞と終助詞の両方がついている形

この〈名詞系〉で終わる〈非述語文〉は〈間投詞系〉で終わるものに次いで多い。こうしたタイプ別に、日本語と韓国語に現れている〈名詞系〉の〈非述語文〉の例を見てみよう。まずは、①の〈名詞単独で現れる形〉と②の〈名詞に付属語である、格助詞や副助詞などの助詞がついている形〉の例を提示する：

【日本語】

[名詞(N)] [名詞+助詞(NI)]

20代男	中学受験、 中学受験 、高校受験、無理、へへ(笑)、俺そんなに運動出来ない。
20代男	中学受験？、そっか、無理か、 あそこじゃ 、四人とか三人じゃ。

[名詞+助詞(NI)]

30代女	すごいですね。じゃ、ご、ご主人が。	はい。お近い、近いところ。
40代女		え、主人のほうは— もう— 自転車で15分なんです。

【韓国語】

[名詞(N)]

40代女	(結婚なさいましたか? はい. 결혼하셨어요?. 예.	まだ 20代.) 아직 이십대.
30代女	저요?. 아니요. 아직 안 했거든요. (私ですか? いいえ. まだしてないですよ.)	아니요. 지금 서른이에요. 이름. 현재 30대.

[名詞+助詞(NI)]

30代女		(うん. 女性がいやそのこう) 음. 여자 아니 저 이케
30代女	아직은 별로 생각 없는 거 같아요. 조금 있으면 나중에. (まだ特に考えていないと思います.)	좀 나중에 생각을. すこして後で. ちょっと後で考えを.)

次は、③の〈名詞に付属語である終助詞がついている形〉を見てみよう。「サラダ+かも」などのヴァリエーションである：

【日本語】

[名詞+終助詞(NF)]

20代女	あと何か、きゅうりを使ったサラダみたいなのとー。 それ辛かったですよ。
20代女	春巻きじゃないな。 あ、サラダかも。

[名詞+助詞+終助詞(NPF)]

20代女	でも、時間かかるでしょう? 学校、まで。 私もそんなくらいかかるかなー。
20代女	一時間、40分ぐらいかなー。

【韓国語】

[名詞＋終助詞(NF)]

20代女	((名前)ですか? 공민경이요?)	どうもこんにちは. 반갑습니다.	はい.) 예.
20代女	공민경이요. (名前です.)	예, 하하하(웃). 반갑습니다. はい, ははは, どうもこんにちは	그, 학교 외대 학생이시죠? その, 学校(大学名)の学生でいらっしゃるでしょ?)
20代女	(どの学科でいらっしゃいますか? 무슨 과세요?)	아, 私スペイン語科. 아, 저 서반어과.	はい.) 예.
20代女	응-. (うん.)	저 이태리어과요. 私はイタリア語科です.	아, 서반어과. 아, 스페인語科.)

[名詞＋助詞＋終助詞(NPF)]

20代女	(ずっとぶらついて, 午前4時でも, 막 돌아다니구, 새벽 4 시에두)	そしたら危なくないし. 그러면 안 위험하구 막.	ははは.) 하하(웃).
20代女		응. (うん.)	아, 새벽 4 시에두 혼자서요? あ, 午前4時でも一人ですか?)

なお、本研究が規定している、韓国語における終助詞で実際に現れているのは「-요/-이요」のみである。韓国語における日本語の「終助詞」に相当するものは、この「-요/-이요」以外には、「-구려」などが考えられようが、本調査では現れていない。この「-요/-이요」は、野間秀樹・村田寛・金珍娥(2004:61)で「丁寧化語尾」、野間秀樹・金珍娥(2004:38,43)で「丁寧化の応答語尾」と「丁寧化の中断語尾」、金珍娥(2005)で「丁寧化のマーカ―」と呼んでいる。実際の会話では極めて多用されるにもかかわらず、既存の文法論では正面から対象化し扱われてはいない要素であるといえる。

助詞、終助詞は、独立して、単独で現れるものは〈助詞系〉として分類しているが、間投詞や名詞、副詞などの他の実施についている助詞類は〈間投詞系〉〈名詞系〉〈副詞系〉などの類型の下位分類の項目として本研究では位置づけている。

〈非述語文〉の発話においては名詞単独で終わる発話のみならず、付属語の助詞や終助詞のついた形で終わる文が数多く出現している。名詞に付属語の助詞や終助詞のついたこうした形の分布を 5.6 で詳述する。

5.3.3. 〈副詞系〉で終わる〈非述語文〉

〈副詞系〉で終わる〈非述語文〉は次のようなタイプに分けうる：

- ① 副詞単独で現れる形
- ② 副詞に助詞がついている形
- ③ 副詞に終助詞がついている形

日本語と韓国語の例からそれぞれのタイプを確認する：

【日本語】

【副詞(D)】

30代女	あ, いい ですね. でもい, 文京区ってすごくいい ところでしょう.
30代女	私は文京区一です. もうすぐ近くです. いや, 全然全然.

【副詞+助詞(DF)】

30代男	あ, ちょ, 長男坊です. えー, 初めてのですね. 親のほうが.
30代男	長男の方?. じゃ, 初めての?. 親のほうがドキドキ.

【副詞+終助詞(DF)】

30代男	よろしくお願ひします. えー, いきなりね. あのー 大丈夫ですかね. 汗かいてますけど.
30代男	よろしくお願ひします. はははは(笑).

【韓国語】

【副詞(D)】 【副詞+助詞(DF)】

30代女	(女の子はもう分かりませんよ. 韓国では 女性が暮らすのがとても. 今までは.) 딸 아후 몰라요. 우리 나라에서는 여자들이 살기가 너무. 아직까지는.		
30代女	음. (ええ.)	그쵸. そうでしょ.	맞아요. そうですよ.)

【副詞+助詞(DP)】

30代男	(あー. 生活のリズムが?) 어-. 생활리듬이?
30代男	생활리듬이 깨지죠, 일단은. 그렇지 않나요?. 예. 저 같은 경우 결혼 신흔 생활하다가 (生活のリズムが崩れるでしょ, まず. そうじゃないですか? ええ. 私みたいな場合結婚新婚生活しながら)

【副詞+終助詞(NPF)】

40代女	(うん. 으음.	さっきのあの方と一緒にですか?) 아까 그 분하고 같이요?.
30代女	아이, 저 대학로쪽에서 친구랑 만나서 있다가 온 거거든요. (いや, 私大学路の方で友達と会ってから来たんですよ.)	

5.3.4. 〈接続詞系〉で終わる〈非述語文〉

〈接続系〉で終わる〈非述語文〉は次のようなタイプに分類することができる：

- ① 接続詞が単独で現れる形
- ② 接続詞に終助詞が付いている形

韓国語の接続詞においては、第4章でも述べたごとく、本研究の談話データの〈接続詞〉は、ほとんど助詞「-는/-은」(…は)がついた形で現れている。しかし、助詞「-는/-은」(…は)の意味は非常に弱化されていて、接続詞そのものの意味しか持たないといってよいほどである。そのため、助詞「-는/-은」(…は)を特別に区別せず、「그러니까는」、「그러다가는」、「그러면은」、「아니면은」のように、助詞「-는/-은」(…は)が接続詞についている形は、〈接続詞〉として扱う。

日本語においては〈接続詞+助詞〉のタイプがありうるが、そうしたタイプは現れなかった点と、「でも+ね」のような〈接続詞+終助詞〉のタイプが日本語には現れているのに比べ、「그러면요」や「그러니까는요」のように、形としてはありそうでも、韓国語のデータには現れていない点も注目したい。

日本語と韓国語の例を見てみよう：

【日本語】

[接続詞(J)]

20代女	向こうまで行くんですよ。う。そうなんです、 だから 。
20代女	実家ですよ？ え、じゃあ、青梅線とか乗ってるんですか？

[接続詞+終助詞(JF)]

30代男	そうなんです。総武線で 行けるっていうのが一番いいですね。
40代男	都心には近いんですよ。 でもね 。そうですね。うん。

【韓国語】

[接続詞(J)]

30代女	(はいはい.) 예예.
30代女	우리 젊은 나이에 도 아들을 많이 원해요, 그래서 . 요즘엔 근데 딸을 많이 낳더라구요. (私たち若い年代でも息子をかなり望みますよ, それで . この頃はただけど娘が多く産まれてましたよ.)

5.3.5. 〈連体詞系〉で終わる〈非述語文〉

〈連体詞系〉で終わる〈非述語文〉には連体詞が単独で現れるタイプのみ現れ、助詞や終助詞の付属語がついているタイプは現れていない。数も非常に限られている。また、韓国語において連体詞は、対象にしているデータには現れなかったが、他のデータに現れているので、ここではその例を示す：

【日本語】

[連体詞(M)]

30代男	逆にあんまり出歩かないですよ、なんか。	ははは(笑)	いや、僕の周りとか見ると。
40代男		そうかもしれないですよ、	あの。

[連体詞(M)]

20代女	踊ってたんですか？	おー。え。	いますよ。ケイコ。
20代女	私はヒップ・ホップです。	ラオスって、	あの。ケイコ？

【韓国語】

[連体詞(M)]

30代男	(あー。そうですか？ 아ー。그래요?)	あー、なに最近コンサートみたいなのやると 아-。뭐 요즘에 공연 같은 거 하면
20代男	음악 들으, 락 음악 들으면서 (音楽聴い, ロック聴きながらそういう.)	그런.

[連体詞(M)]

30代男		(はは.) 하하(웃).
20代女	그래요?. 어, 무슨 동남아 막 (そうですか?あ、なに東南アジアとかこうい。)	이런. 하하(웃). 그런 거 아니에요? 하하. (하하. そうですか?)

[連体詞(M)]

20代男		(ジャンル, 私はモダンロックで姉さんはニューメタルやって.) 장르, 저는 모던락이고 누나는 뉴메탈하고 있고.
30代女	아우 궁금해지네. 그럼 뭐 약간 장르는 (いや一気になるなあ。じゃあなにちょっとジャンルはどういう?)	어떤? 아아.)

韓国語の連体詞の「이런」(こんな)、「그런」(そんな。あんな)は、当該の文をソフト化させる緩衝機能を持って用いられている。こうした表現については第8章で詳細に述べ

ることとする。

5.3.6. 〈用言系〉で終わる〈非述語文〉

前述のように、用言で終止する文は、通常は〈述語文〉ということになる。しかしながら、用言が現れているにもかかわらず、用言が〈連体形〉で現れる場合と、用言の後ろに助詞がついた場合、述語としての用言は文を統合する力を失っている点に注目し、本研究では〈用言系〉で終わる〈非述語文〉として扱っている。これには次のようなタイプが現れた：

- ① 形容動詞の連体形
- ② 動詞の後に助詞がついている形
- ③ 形容詞の後に助詞がついている形
- ④ 指定詞の連体形

この4つのタイプの中で形容動詞の連体形はもちろん、動詞や形容詞の後に助詞がついた形が日本語にのみ現れている結果は、注目すべきである。また韓国語において、ここで比較計量の対象にしている談話データに〈指定詞の連体形〉が現れており、他のデータには動詞、形容詞、存在詞といった、韓国語のすべての用言の種類についても連体形が現れている。そうした例も併せて提示する：

【日本語】

[形容動詞(助動詞)の連体形]

20代男	何か勿論勉強も出来てー、且つ運動も出来ないと絶対入れないみたいな。
20代男	あ、マジで？ え、すげー。

[形容詞+助詞(AP)]

20代女	うん、そうそうそうそう。 そうみたーい。
20代女	バイトが忙しいとか、 あ、そうなんだ。 あー。あ、

この「(入れない) みたいな」や「(忙しい) とか」は頻出する。これも緩衝表現である。日本語の「(入れない) みたいな」や「(忙しい) とか」といった表現が多用される、いわば安定した表現であるのに対し、韓国語の用言の連体形は安定した終止とはちょっと言いにくいものである。それにもかかわらず、次のように用言の連体形で終わる文が

現れているのは興味深い：

【韓国語】

【指定詞の連体形】

30代女	(아, 그러세요? 아, 그러세요?)	あ, そうですね。 그죠.
40代女	그러니까 저는 마흔 두 살이에요. (だから 私は42歳です.)	그러면 몇 살인. じゃあ何歳の. 열 살 어린 거잖아. 10歳下じゃない.)

【動詞の連体形】

20代男	(君は何が欲しいの? 넌 뭐 갖고 싶은데?)	うん. 응.	香水の何? 향수 뭐?	さっぱりした香り 시원한 향
20代女	나? (私?)	어-, 향수. うーん, 香水.	그냥 시원한 향 나는. たださっぱりした香りが香る.)	

【動詞の連体形】

20代男	(若くお見えで. ええ, ええ. 젊어 보이셔서. 예, 예.)	結婚なさった. 결혼하신.
30代女	예, 젊어 보이죠. 제가요. 하하하(웃). (ええ, 若く見えるでしょ, 私が.)	결혼은 예. 결혼은 はい.)

【動詞の連体形】

20代女	(ちょっと負担じゃない. 芸能人とか着るような.) 좀 부담스럽잖아. 연예인들이나 입을 듯한.		
20代女	어우, 너무 싫어, 너무 싫어. (ええー, すごいや, すごいや.)	짜증나, 짜증나. むかつく, むかつく.	쉐쉐쉐. スェスェスェ.)

【存在詞の連体形】

30代男	(はい, 近いです. 私は区庁駅.) 예, 가까워요. 저는 구청역.
30代女	그 논현동 옆에 서울세관 있는. (あの論峴洞の横にソウル税関のある.)

【形容詞の連体形】

30代男	(あ, だけどちょっとよくない. はは. 아, 근데 좀 안 좋은. 하하(웃).)	状態がよくない状態なので. 상태가 안 좋은 상태라서.
40代女	하하(웃). 왜요? (ははは, どうしてですか?)	

【指定詞の連体形】

30代女	(はー, すごい. 長続きするね 히, 대단하다. 오래한다.	ははは. そんな自嘲的な.) 하하하(웃). 그런 자조적인.
30代女	할 게 없으니까 하는 거야. (やることないからやるのよ.)	하하하(웃). 最近에는 진짜 最近は本当に)

日本語と韓国語において〈述語〉を持ちながら、形態が連体形や、助詞を伴うことで〈非述語文〉となってしまう、こうした文に関しては、以下の第7章で述べる。

5.3.7. 〈助詞系〉で終わる〈非述語文〉

文法研究において付属語とされる助詞や終助詞が、文の最後に独立して現れるものを〈助詞系〉として分類し、ここで見ておく。次のようなものが現れている：

【日本語】

[助詞(P)]

20代女	うん, 何か, だから.	おえあ面白くない, だって .
20代女	え, 面白そうじゃん.	へー.

[助詞(P)]

40代女	すごい来てほしいんだけどやっとなら来てもらったのよね なんて . 何かこうわりと一嫌がる人多い
30代女	はははは(笑).

[終助詞(F)]

20代女	わ, 必修も, あんまり. 最近, 寝坊しちゃうみたい.(笑)ね.
20代女	かも . バイトが忙しいとか.

[終助詞(F)]

30代男	あ. (は)	今 なんか (笑).
40代男	もう錦糸町あたりとかもうずいぶん町変わりましたがね, 今. ね . オダテンなんかかも一移ってきて.	

日本語の終助詞「かも」や「ね」だけで終止する文も、日本語に特徴的である。日常の会話でも多々観察されるものである。こうした〈助詞系〉で終わる〈非述語文〉は日本語にのみ現れる独特なタイプといえ、注目すべきである。〈助詞〉の現れ方に関しては5.5と第7章でより詳細に述べることにする。

5.4. 〈非述語文〉の分布

5.3 では〈非述語文〉の文末のあり方をタイプ別にわけ、その実態を見てきた。この項ではそうしたタイプ別の〈非述語文〉が日本語と韓国においてどのような割合で現れているのか、また世代や性別によってはどのように現れているのか、〈非述語文〉の出現の分布を把握することにする。

5.4.1. 日本語と韓国語における〈非述語文〉の割合

日本語と韓国語それぞれ、40代、30代、20代の12名、計24名の発話に現れた〈非述語文〉の文末の品詞別分布を考察する。各話者から現れた〈非述語文〉の総数における各品詞の総数を、文数と割合で提示する：

表 66 日本語と韓国語の〈非述語文〉の文末の品詞分布

日本語			韓国語		
タイプ	文数	割合	タイプ	文数	割合
間投詞系	543	67.0%	間投詞系	440	75.0%
名詞系	183	22.6%	名詞系	103	17.5%
副詞系	52	6.4%	副詞系	30	5.1%
接続詞系	9	1.1%	接続詞系	13	2.2%
連体詞系	10	1.2%	連体詞系	0	0%
用言系	6	0.7%	用言系	1	0.2%
助詞系	8	1.0%	助詞系	0	0%
総数	811	100%	総数	587	100.0%

(%：各言語の〈非述語文〉の総数における各品詞の総数)

日本語、韓国語共に、〈非述語文〉の文末には〈間投詞系〉の品詞が最も多く現れている。また、日本語の〈間投詞系〉が67%であるのに比べ、韓国語の間投詞系は75%に上っており、韓国語が〈間投詞系〉で終わる〈非述語文〉を日本語より多用していることがわかる。舟橋宏代(1994)、金志宣(2000)、金珍娥(2004a)では、日本語が韓国語よりあいづち発話を多く用いることを述べている。今回の日本語より韓国語に高く現れた間投詞の使用率は、単独で現れるあいづち発話のみではなく、yes-noの答えにあたる〈受け答えの間投詞〉と〈他の実詞について現れる間投詞〉まで含まれた数値である。

あいづち発話を含む間投詞の使用が日本語より韓国語に多いということは注目すべき結果である。

次に多く現れているのは、両言語共に、〈名詞系〉、〈副詞系〉、〈接続詞系〉の順である。〈名詞系〉で終わる〈非述語文〉は日本語が22.6%、韓国語が17.5%と、その使用率が高く現れている点が興味深い。また〈接続詞系〉は日本語より韓国語に使用率がやや高く現れている。

日本語においては現れている〈連体詞系〉と〈助詞系〉で終わる〈非述語文〉は、韓国語には現れていない。〈用言系〉は日本語が韓国語よりやや多用していることがわかる。これらはいずれも頻度は低い。

5.4.2. 日本語と韓国語における世代別〈非述語文〉の品詞の使用率

ここからは〈非述語文〉の構造別の使用者ごとの分布を見てゆく。まず、日本語の世代別品詞分布を、文数で表した表から考察してみよう：

表 67 日本語における世代別品詞分布(文数)

タイプ	20代	30代	40代	小計
間投詞系	191	210	142	543
名詞系	112	30	41	183
副詞系	27	19	6	52
接続詞系	7	1	1	9
連体詞系	6	2	2	10
助詞系	2	0	6	8
用言系	2	2	2	6
総数	347	264	200	811

日本語ではここでの〈非述語文〉の絶対使用頻度数は20代が最も多く、30代、40代の順になっている。本研究の日本語のデータの総数についての〈非述語文〉の使用率は5.1.3.1.で見たごとく、20代が58.1%、30代が58.7%、40代が53.3%であった。ここでは30代に〈間投詞系〉が最も多く用いられている。また、〈名詞系〉の20代の断然高い使用頻度は目立つ結果である。〈副詞系〉〈接続詞系〉〈連体詞系〉の使用頻度は世代差はそれほど見られない。

次は韓国語の世代別品詞分布を、文数で表した表から考察してみよう：

表 68 韓国語における世代別品詞分布(文数)

タイプ	20代	30代	40代	小計
間投詞系	165	156	119	440
名詞系	34	28	41	103
副詞系	12	13	5	30
接続詞系	1	8	4	13
用言系	0	0	1	1
総数	212	205	170	587

5.1.3.1.で見たごとく、データの総数から見ると、韓国語の文の総数に対する〈非述語文〉の割合は20代で53.7%、30代で54.0%、40代で51.8%である。韓国語では〈間投詞系〉は20代に目立つ。また、〈名詞系〉が40代に最も多く現れているのは、興味深い。

〈副詞系〉は20代と30代が20代に比べるとやや多く用いられている。

以上、日本語と韓国語の〈非述語文〉の文末を担当する品詞の割合を世代別に見た。〈間投詞系〉が日本語には30代に多く用いられているが、韓国語には20代に多く用いられている。また〈名詞系〉日本語には20代に断然高い使用頻度が見られ、韓国語には40代の使用が最も多かった。韓国語の40代は、30代の相手に対し、初対面でありながら目下であったため、常体のスピーチレベルが明確ではない、〈名詞系〉で終わる〈非述語文〉を用いたものと推測できる。

日本語も韓国語も各世代において〈間投詞系〉と〈名詞系〉の〈非述語文〉が最も多く用いられている上記の結果は、日本語と韓国語の会話スタイルの類似性の断面を示すものでもある。

5.5. 助詞が成す〈非述語文〉

上記の〈非述語文〉の〈名詞系〉〈副詞系〉〈接続詞系〉〈用言系〉という分類においては、各品詞が助詞や終助詞と結合する形もそれぞれ、各品詞系の下に位置づけた。

さて、助詞のみで終わる文だけでなく、この項では、広く助詞が文末に来る〈非述語文〉を取り上げて見てみよう。第4章でも触れたように、助詞で終わる〈非述語文〉を、さらにその内部に分け入ってみると、文末での働きから、さらに3つのグループに分けて観察することができる：

- ① 「が」「を」など格助詞, 「は」「も」「とか」「だけ」など副助詞, 「て」など引用助詞のグループ…〈助詞〉
- ② 「けど」「から」など…〈接続助詞〉
- ③ 「ね」「か」など…〈終助詞〉

①の〈助詞〉グループは, 辞書などでは文末に現れる例は普通挙げていない。基本的には文末以外の位置に出現することを主な用法と見ているものであろう。

これに対し, ③の終助詞は基本的には文末に現れる例しか辞書類は挙げていない。文末が終助詞の基本的な出現位置という認識だと言える。②の接続助詞は, ①③との中間的な扱いであることが多い。文末以外に現れる例が主だとはいえるが, 場合によっては文末に現れる例も辞書は挙げているからである。なお, 文末に用いられていても, 形に注目して本稿では接続形として扱っている。終助詞が用言についたものはどこまでも終止形であるのと, この点で異なっている。

実際の話されたことばでは上のいずれもが出現するというだけでなく, 実は〈非述語文〉にあっては, ①の〈助詞〉類が最もたくさん現れるのである。①の〈助詞〉類は事実上, 文末に現れることを主とした働きとは一般には見ていないわけだが, そうした考え方自体も再考されてよいかもしれない。格助詞や副助詞も文末を立派に担う要素なのである。この点では日本語も韓国語も同様である。なお, 用言に〈接続助詞〉や〈終助詞〉が結合した形は, 本研究では〈述語文〉のカテゴリーに属するものである。

助詞と終助詞で終る〈非述語文〉, 終助詞のみで独立している〈非述語文〉に注目し, 助詞と終助詞はどのぐらいの割合で文を終止させているのかを考察してみよう:

表 69 日本語における助詞で終止する〈非述語文〉

品詞+助詞*	文数	割合	品詞+終助詞	文数	割合
間投詞+助詞	8	5.7%	間投詞+終助詞	12	8.6%
名詞+助詞	72	51.4%	名詞+終助詞	9	6.4%
副詞+助詞	18	12.9%	名詞+副詞+終助詞	1	0.7%
形容詞+助詞	1	0.7%	名詞+助詞+終助詞	2	1.4%
動詞+助詞	2	1.4%	副詞+終助詞	6	4.3%
助詞	2	1.4%	接続詞+終助詞	1	0.7%
			終助詞	6	4.3%
小計	103	73.5%	小計	37	26.5%

〈%: 助詞と終助詞で終止している文の総数における各項目別文の総数〉

* 左の列の「助詞」は終助詞や接続助詞以外の助詞、格助詞、副助詞など。

日本語の助詞で終る〈非述語文〉において、終助詞や接続助詞以外の助詞が文を終止させる文は73.5%で、終助詞による文の終止より、47%も高い割合を示している。接続助詞で終わるものは現れていない。独立して現れる割合は、終助詞が助詞よりやや高い割合を示している。

韓国語はどうだろうか：

表 70 韓国語における助詞で終止する〈非述語文〉

品詞+助詞	文数	割合	品詞+終助詞	文数	割合
名詞+助詞	38	57.6%	間投詞+終助詞	2	3.0%
副詞+助詞	4	6.1%	名詞+終助詞	19	28.8%
			名詞+助詞+終助詞	2	3.0%
			副詞+終助詞	1	1.5%
小計	42	63.7%	小計	24	36.3%

〈%: 終助詞以外の助詞と終助詞で終止している文の総数における各項目別文の総数〉

韓国語の助詞で終る〈非述語文〉においては、助詞が文を終止させる文は63.7%で、終助詞による文の終止より、27.4%の高い割合を示している。その中でも名詞に助詞がついて〈非述語文〉を作る文が最も多く、その次が名詞に終助詞がついて〈非述語文〉を成す文である。

韓国語の終助詞は本研究が定めているもので「-요/-어요」のみが該当する。野間秀樹(2000)、野間秀樹・村田寛・金珍娥(2004)、野間秀樹・金珍娥(2004)では、「-요/-어요」を「丁寧化の語尾」として扱っている。それ以前までの韓国語研究においては「-요/-어요」は語尾としても終助詞としてもほとんど正面から取り上げることはなかった。終助詞「-요/-어요」のみで、〈非述語文〉を成す文が36.3%というのは助詞と合わせて考えてもその比重は大きく、注目すべきである。

こうした結果から日本語と韓国語において、助詞も文を終わらせる機能を果たしていることが確認できる。さらに、文を締めくくるのは終助詞よりも助詞のほうがその役割を大きく果たしているのである。また、日本語においては助詞と終助詞が単独で現れることができ、付属語としてのみ役割を果たしているのではないことも確認しておく。

以上、日本語と韓国語における〈非述語文〉のあり方を考察してきた。その類型を〈間

投詞系)〈名詞系)〈副詞形)〈接続詞系)〈用言系)〈助詞系)に分け,日本語と韓国語の類似した姿と相違した姿について述べた.既存の文法研究で深く掘り下げることのなかった〈非述語文)の姿の究明を試みることにより,書かれたことばと異なる話されたことばの特徴を究明することにもつながるのであろう.